住友電線製造所 十六日 大阪

終に罷業狀態

嘆願書を撤回して 更に要求書を提出す

大阪西區恩貴島町住友電線製造所の職工千二百名が結束して會社に對し再度の嘆願書を提出したことは既報の如くであるが會社側は十六日午前九時半第二次實行委員六名を應接室に招致して川上副支配人から

十五日諸君に交附した回答で暫く時機を待つてゐて貰ひたいと態よく拒絶したので實行委員は作業中の各職工に此旨を報告すると共に一千五百名の男女職工中一部を除く外は全部怠業狀態に入り不穏の氣が工場内に漲ふたが同午時半岡本喜藏、森藤太郎外十名は再び川上副支配人に面會を求め

吾々は會社の誠意なき回答に滿足する事が出來ない

要求書を提出した、これに對し川上副支配人並に佐伯人事課長は交々懇諭したが委員等は「十七日正午までに何分の回答を望む」旨を述べて退出した、而して怠業狀態であつた工場内の全職工は前記委員の歸來と共に全く罷業狀態となり彼處此處に屯して何事か協議を凝らし機械のみ物凄い唸りを發して徒らに運轉してゐる、朝日橋署からは私服警官出張萬一を警戒中である

住友鑄鋼所も

半怠業狀態

十六日嘆願書を提出して

大阪西區島屋町住友鑄鋼所職工二千名が結束を固め愈々會社に對して嘆願書を提出する事に決定したのは既報の如くであるが

これより先き十五日午後三時半山下所長が職工に對し電線製造所の職工に動かされて輕擧に出ない樣演說した際職工中機械勞動組合幹事山内哲吉が山下氏の演說後演壇に飛上り反對演說を始め職工の氣勢を煽つたので

會社側では山内の行爲は秩序を紊

嘆願書を工藤支配人の手元に提出したが工藤氏は署名者中山内は既に解雇した者であるとて受理を拒んだ爲め前記委員等は一應退出し工場内に於て協議中であるが多分山内の名を削除して提出する模樣である、尙職工は入所した儘張りて就業せず半怠業狀態である

解決の曙光が見えたこと

藤永田の罷業職工連 示威運動に氣勢を揚ぐ

大阪藤永田造船所の罷業團は同問題も何うやら解決の曙光が見えて來たさいふのでいよ〳〵最後の氣勢を上げるべく一同は十六日午前九時半市電木津川線終點大國場に勢揃ひをし小野、相澤兩造船所からの多數の應援團が參加して總勢七百會旗を押立て、一大樣隊となつて電車道路を北へと西區新淀屋町の藤永田本社、永田三十郎氏邸宅前を例の通り勞働歌を高唱しつゝ大正橋に出で境川から安治川通濱屋町を南へと築港遊園地に到着し二三幹部の激動演說があつて午後二時過ぎ無事解散した

一方會社側では當日午前八時から罷業職工の給料支拂を開始したが本工場、敷津工場とも受取に來たのは僅に復業團を出した途中のみで正午までに兩工場を合せて百數十名に過ぎなかつた

又罷業團の方では西區報の共益社で賀川豐彦、木村疑吉氏等の手で各自の委任狀を作成中であつたが當日午後三時頃全部纏まるのを待ち高山義三氏が代理となつて受取つた、因に當日會社側で復業罷業全部の職工に支拂つた給料總額は約九萬圓に上つた

住友大阪

又歎願書を刎ね付けられ

更に要求書提出

住友電線怠業に入らんとす

市内西區恩貴島南町の住友電線製造所職工は十六日午前九時三十分第二回の嘆願書に對する會社側の回答が除りに誠意無きものとして十時に至り第三回目は要求書として提出した其内容は前同樣で唯第一條が賃金値上、時間の協定、工場設備、解雇手當の四項を加へて更に實行委員を十二名に增加し午

七日午前十時を期して回答を迫つた點と共に同所千二百名の職工は列を怠業狀態で仲に『は重用金千五百圓もあるのだから心配せずに居れ』と激勵する樣漸時惡化して行く模樣で・工場の模樣を見るに僅一本の煙突よりは煙を見るのみで職工の怠業遺憾なく物凄つてゐる

新聞 月日 新聞 月日 新聞 月日 新聞 月日 新聞 月日 新聞